

「今日の消化器疾患治療指針」

関東通信病院副院長・内科 多賀須幸男 総編集
 筑波大学教授・内科 大菅 俊明
 東海大学教授・内科 三輪 剛
 愛知県がんセンター部長・内科 小林 世美
 聖マリアンナ医科大学教授・内科 岡部 和彦 編集
 東京慈恵会医科大学教授・外科 青木 照明
 秋田大学教授・外科 小山 研二

都立駒込病院院長

服 部 信

このほど『今日の消化器疾患治療指針』が刊行されたが、総編集者の1人多賀須幸男関東通信病院副院長に書評を依頼され、お引き受けした。本書は、編者の序に「“消化器疾患の現代治療事典”を構築することを目標とした」と述べられているように、消化器病学のすべてにわたる問題があらゆる角度から取り上げられ、12章、425項目に分けて、必要不可欠の量にまとめられている。

本書の特徴の第1は、執筆者が消化器病の第一線で日夜実際に苦勞されている方々に限定されていることで、所謂老大家でなく若手のバリバリ働いている方々が書かれている点である。この執筆者の選択は恐らく編者の強い意向を反映したものであるが、所謂既成の大家を極力避け

ている点は極めて合理的であり、新鮮さを感じさせ、本書の価値を非常に高めていると言える。大学の方も、研究所の方も、市中病院の方も、開業の方も、それぞれ自らの専攻とする分野について、御自分の豊富な経験をもとに簡明に記載されている。北海道から九州まで、全国各地から多くの方が筆者として参加されていることも読者に親しみを与えており、本書に好感を抱かせる点であろう。

特徴の第2は、従来のような薬物治療、外科手術だけでなく、新しく登場した治療法についても幅広く採択されている点である。更に適切な図説も入っており、実にわかりやすい。従来もこの種の治療書は数多く発刊されたが、本書は他に類をみな

い“実用書”と言えよう。消化器は患者数の多い領域であるが、それに対応してまれにしか遭遇しない疾患についても洩らさず記載されており、また他領域の疾患の消化器に関する病変、病態もあまさず述べられている。更に消化器に関する症候学とその対策、新しい機器についても十分に書かれているので、この687頁の本1冊の中に、診療の現場はもとより、学生に教える場合にも、学生が勉強する場合にも、必須にして最新の知識が実に要領よく収められている。

これまでややもすると、大作の医書は冗長で締まりに欠ける弊がみられ、一方簡明な医書はあまりに簡略すぎて役立たないきらいがあった。しかし、本書は大作ではあるが必要な項目が各々適当な量の文章と図で書かれているので、飽きずに読み進むことができる。また、単なる治療法の羅列でなく、治療方針を決定する原則、ポイントにまで踏み込んで書かれているので、評者には大変読みやすく、役立つ本と感じられた。本書を消化器疾患の治療に携わる多くの臨床医に推薦する所以である。

消化器疾患に関する良い治療書が完成したことに敬意を表すると共に、今後消化器疾患治療の進歩に伴い、適切な時期に改訂版が出されるよう望みたい。

●B5判 704頁 図129 写真13
 1991 定価13,390円(税込) ㊦400